

【乳汁検査まとめ】

はじめに

今年も上半期が終了しました。そこで今年の1月～6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

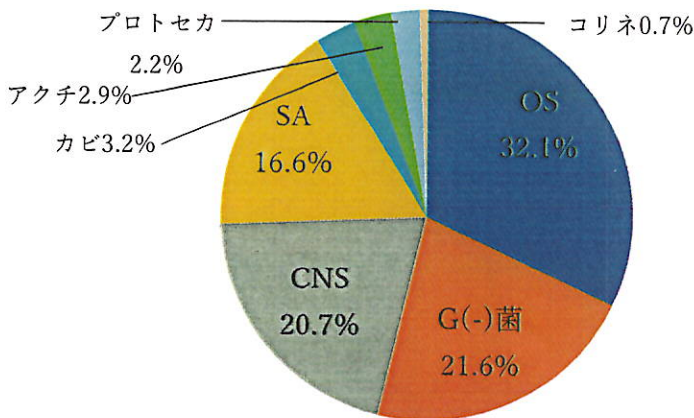
検査頭数は911頭（重複含む）、検査分房数は1739分房（重複含む）でした。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

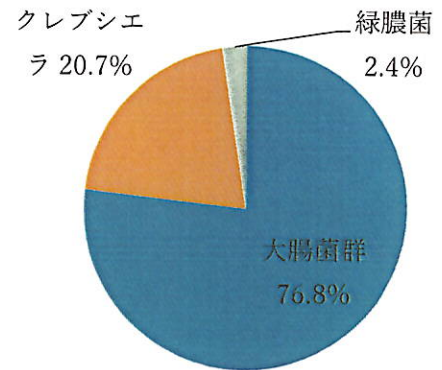
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はOS（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。OS、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 OSにはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記

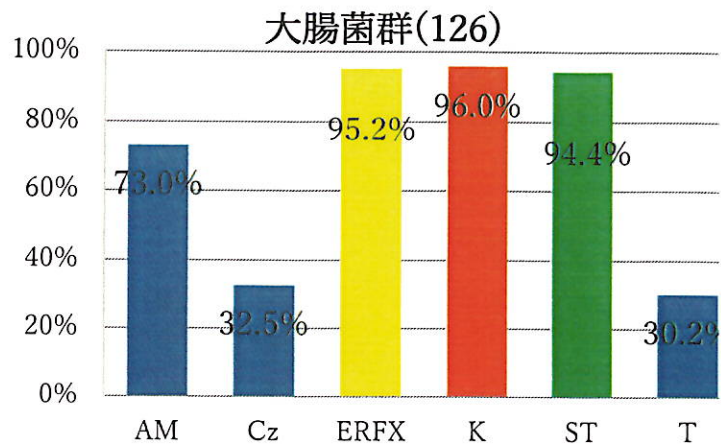


グラフ2 G(-)菌割合

※大腸菌群は大腸菌、その他の大腸菌群を含む

グラフ1にてG(-)菌としたものの内訳です。G(-)菌の発生分房数は164でした。大腸菌群が126分房で、割合は76.8%となり最多でした。クレブシエラは34分房で、割合は20.7%でした。緑膿菌は4分房で、割合は2.4%でした。

G(-)菌感受性割合



Total Herd Management Service

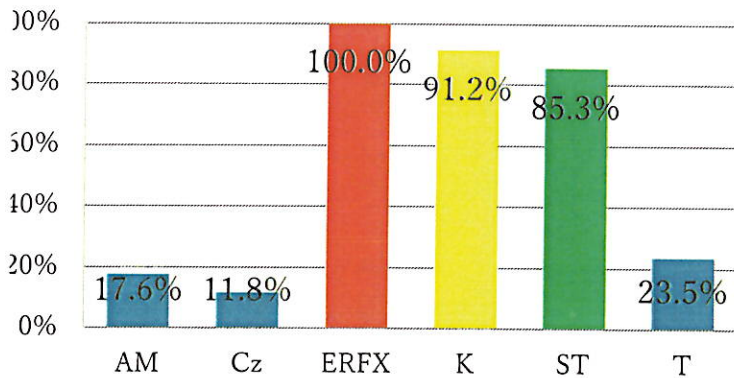
グラフ3 大腸菌群感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品はK（カナマイシン・タイニーPK）、ERFX(バイトリル10%)、ST（トリオプリン）でどれも感受性割合は90%を超えています。これは昨年までの結果と変わりませんが、K（カナマイシン・タイニーPK）が僅かにERFX(バイトリル10%)の感受性よりも高い結果となりました。

K（カナマイシン・タイニーPK）の使用を検討してみてもいかがでしょうか？

来月はSAやOS等のG(+)菌の感受性割合を紹介いたします。

クレブシエラ(34)



富田大祐

グラフ3 クレブシエラ感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は大腸菌群と同じERFX(バイトリル10%)、K（カナマイシン・タイニーPK）、ST（トリオプリン）でどれも感受性割合は90%を超えています。大腸菌群と比較するとどれも少しずつ感受性割合は低いものの、ERFX(バイトリル10%)については100%という結果になりました。

緑膿菌については、4分房全てでERFX(バイトリル10%)のみ感受性ありという結果になりました。

最後に

大腸菌群、クレブシエラどちらもERFX(バイトリル10%)、K（カナマイシン・タイニーPK）、ST（トリオプリン）の3薬品が高い感受性割合を示し、T（OTC注・軟膏）は依然低い感受性割合を示しました。

K（カナマイシン・タイニーPK）はERFX(バイトリル10%)と同じく殺菌的な抗生剤であり、軟膏（タイニーPK）もあります。抗生剤の慎重使用の観点からも大腸菌群、クレブシエラを疑う乳房炎に対して



Total Herd Management Service